

東京瓦斯爭議に就て

市民諸君に訴ふ

親愛なる市民諸君、我が東京瓦斯工組合は最も穩健なる合法手段に依り一般従業員の生活上及び社會の向上を圖り進んでは公益事業の従業員としての使命を完成せん事に努力なすつゝ來たのである。

然して今回會社に提出せる要求條項の如きも先年重役との口約あるにも不抱實際的最少限度に自から切り詰め如何なる方面より觀察するも不當ならざる程度のもを去る七月十三日に提出したのである。其の際會社の代表者は我々の要求に對し決して過大でない、故に此の條項に最も近きもの或は之れより以上のものと成すかも知れぬ。然し目下本社は總會前にて非常に多忙である故確定的の回答は是非共總會後にして呉れ、然らば穩健なる組合の擴張にも蔭に便宜を與へるとの言葉であつた。故に我組合代表者は其の言葉を信頼し他に米問題如きもあれど陰忍に陰忍し只だ單に期間のみの事にて會社との衝突を避けるがため勞働組合として他に見ざる長き回答期間を與へたのである。然るに不抱會社は八月四日我々組合との約束を裏切り要求條項の半額位のものを示し紳士にもあるまじき暴言を以て組合代表者を威嚇し會社側より宣戰を布告する如き態度に出たのである。故に我が組合は公益事業の使命を全ふせんため、不誠意なる會社當局の反省を促がす可く決意し其の回答を突き返すの止むなきに至つたのである。我々は市民諸君に迷惑を及ぼす様な事は成るたけ避けたいと思ふ、そして一日も早く圓滿に解決せんことを望んで居る、然し不誠意なる會社當局が飽く迄反省しなかつたならば問題は如何に進展するかも圖り難いと言ふ事を良く理解して頂きたい。我々の正義が勝利を得る爲には市民諸君の聲援を待つところ甚大である。乞ふ正義の爲め援助を惜まざる事を。

大正拾五年八月五日

東京瓦斯工組合爭議部